

『大学と学生の「情報の溝」を埋めよう』

1) はじめに

本グループでは、まず自大学の問題点を出し合った後に、それぞれの問題意識について共有を図った。その後、「大学に求められている役割は教育とサービスのどちらが中心になっているのか」に着眼し討論を行った。その過程において、高等教育（大学）はこれまで全学生が体験してきた初等・中等教育機関とは異なり、主体的な学びを通し自己形成を育むことが求められていること、またその一方で、学生生活支援やキャリア支援教育等も強く求められており、この部分では教育の域を超え、サービスとの分別が困難になっている現状があるとの認識を得た。

2) 大学の役割



【教育】

知識の修得（資格・専門・一般教養等のスキル）、多種多様な価値観を持った人々との交流、人間力育成（思考力・主体性）

【サービス】

学生生活支援（学習サポート・奨学金等）、キャリア支援教育、地域社会貢献

3) 現状の課題（サービス面）

現在の大学が上述の「役割」を果たす上で、二点の課題に着目した。

一点目は、「情報伝達不足（ソフト面）」である。現状においては大学もイベントや休講・ガイダンス情報、様々な学生生活支援等を発信しているが、これを学生が見落とす事で学生が不利益を被ったり、提供されているサービスを受け損ねている可能性がある。しかしながら、この状況は情報の受信者側（学生）のみの責任ではなく、一方的な発信をしてしまっている発信者側（大学）にも責任があると言えるのではないか。また情報発信源が学内掲示板やポータルサイト、教職員からという様に多様化してしまい、学生自身が本当に求めている情報が分散してしまっていることも一因として挙げられる。

二点目は、設備面（ハード面）である。校舎・学内施設の老朽化や学生が使用できる端末・PC数不足、また課外活動に提供できる場所が少ない一方で、勉強に集中する場所や課外活動等を行うとした時に限られた施設探しや学生自身の居場所探しをしなければならない。

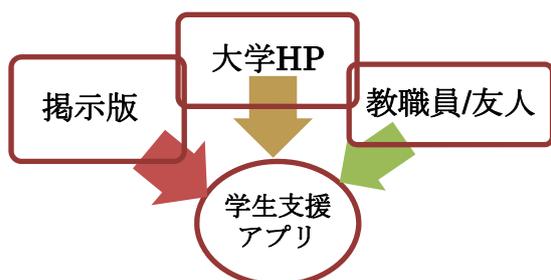
この二点の課題の根底には、情報の発信者である大学と受信者である学生の間に、今一步情報が伝わりきれていないという問題が存在していることが想定される。これを当班では「大学と学生の間情報の溝」と定義した。そして、この「情報の溝」の解消により、学

生は大学が提供している情報から自身にとって必要な情報を効率的に入手し、より豊かな学生生活を送ることができるのではないかと考えた。

4) 改善提案

そこで、本グループが提案する改善方法として、「学生支援アプリ (=SuiSui カップ)」を提案する。近年、スマートフォンの普及率は 70%以上になり、多くの学生が利用しているのでアプリは抵抗なく身近な存在として受け入れられている。なお、大学別のポータルサイトを運用し情報提供を行っている大学も多いが、利用率や使用頻度が少なく、学生全員に周知、利用されていない場合もある。その理由は、ログインの手間や通知機能の不便性などが挙げられる。それに比べ、アプリの場合はログイン不要、プッシュ機能付お知らせなど利便性を高められる利点が多くある。当アプリの主な機能は、以下の 4 点である。

- ① 「SNS 機能」：学生の課外活動の PR、メッセージ機能付
- ② 「イベント情報カレンダー」：学内イベント・ガイダンス・学内セミナー等の概要確認
- ③ 「動画で確認分かる履修登録」：再確認学生とガイダンス欠席者対応
- ④ 「ログインボーナス」：興味・関心を持ってもらうためのキッカケ作り



*その他導入検討機能

- ・学内アルバイト情報
- ・各種申請、予約システム
- ・図書館空席確認システム
- ・ポイント制、近隣店舗とのコラボ

5) 導入するにあたっての懸念点

- ・情報セキュリティ (運用・管理・保守の管理部門の設置)
- ・明確なポータルサイトとの差別化 (コスト面も含む)
- ・アプリをダウンロードが出来ない学生への対応 (入学者の多様化)
- ・コミュニケーションの希薄化 (⇔ Face to Face)

6) まとめ

当アプリと学内ポータルサイトを併用利用してもらうことで、大学が発信する情報にふれる回数が多くなり、学業・課外活動等の両面において有益な情報の見落としも減少するはずである。また、学生が得た情報はそれぞれが主体的に行動するキッカケにもなり得る。これにより、多くの学生が効率的に学業に取り組めるとともに、様々なイベントや課外活動に積極的に参加することができ、学生の満足度向上に繋がるはずである。

このような ICT の活用により、「大学と学生間の情報の溝」を埋め、学生だけでなく教職員も効率的に必要な情報を学生に伝達することが可能となり、業務改善の効果も期待できる。